

RIDLEY OWNERS MANUAL

WARNING

新品のリドレーのフレームを使用する前に、このマニュアルに記載されている説明を注意深く読み、厳守してください。マニュアル及びリドレーのフレームに付属する全ての文書は大切に保管して下さい。これらには重要な情報が含まれており、あなたがリドレーのフレームを新しいオーナーの方に譲るときには内容の確認が必要になります。

WARNING

サイクリングは競技会及びレクリエーションでも危険になり得ます。舗装が良くない道や悪天候、乗る人の健康状態、スピード、体重、技術、左記以外にも様々な要因が予測可能な事故を引き起こすことがあります。このような事故による衝撃は、優れた製造技術と素材で作られた最先端のリドレーのフレームにさえ、深刻なダメージを与え、破壊する可能性さえあります。(8 ページ参照)

WARNING

このマニュアルには**自転車**のご使用をお控え頂く状況や操作、又リドレーのフレームを安全な状態で使用し続けるための説明が記載されています。

WARNING

正規代理店による定期的及び日常の点検が安全性の基本になり、その証明には点検の記録が必要になります。

リドレーを代表して、弊社の商品を信頼して頂いたことに感謝します。私たちはリドレーのフレームがあなたに楽しい時間をもたらすと確信しています。しかしながら、私たちリドレーはあなたの安全性に関しても考慮しています。そのためにもこのマニュアルを注意深くお読みください。マニュアルにはリドレーのフレームの安全な使用方法が記載されています。各部品はもちろんフレームは**自転車**の中で最も重要になります。正しい対策に加えてご使用をお控え頂く状況もあり、そのような状況下でのご使用はあなた自身とフレームに深刻な影響を与える可能性があります。点検はあなたの安全を保障する重要な要素になります。このマニュアルに付属する点検項目をお読みください。この項目は正規代理店による周期的また定期的な**自転車**の点検を証明するためのもので、それが**自転車**の製品寿命を伸ばすことにもつながります。

オーナーズマニュアルは安全上、非常に重要であり、弊社の責任の範囲を示しています。これらは最大限の注意を払って読んでください。**自転車**に乗る際は安全に気を配り、自然現象に注意し、適切なヘルメットをかぶり、適切な服装をしてください。

また、各フレームの詳細情報については <http://www.ridley-bikes.com/jp/en/about-ridley/downloads> にてフレームパスポートを掲載しています。ワイヤーの取り回しや締付けトルク等、フレームのメンテナンスに必要な情報が記載されていますので必ず熟読頂き、ご確認下さい。

目次

安全上の注意点: 3 ページ

リドレーフレームの寿命を縮める保管方法、及び使用方法: 4 ページ

自転車使用前の注意事項: 5 ページ

自転車を使用する前に知っておくべき基本事項: 6 ページ

日常の点検実施事項: 7 ページ

定期的な点検: 8 ページ

最低限知るべき安全ルールと実用的アドバイス: 9 ページ

安全上の注意点

WARNING

リドレーは想定していない過剰な衝撃に耐えられるようには設計されていません。また不適切な操作時も同様になります。
(5 ページ参照)

WARNING

リドレーは各用途に向けて設計、製造され、フレーム部分のみに対して製造責任を持ちます。フレーム以外の自転車部品は、規格が適合する製品で構成されています。フレーム以外の部品もマニュアルをお読みください。自転車を使用する前に不明点がある場合は正規代理店にお問い合わせください。

WARNING

このマニュアルには様々な説明や実用的アドバイスが含まれていて、自転車の取り扱い方法も含まれています。それにはフレーム以外の製品も含まれていますが、そのような製品にはリドレーの責任は含まれておりません。それらの製品のマニュアルも注意深く読み、厳守してください。

WARNING

フレームやフォーク、又他の製品に対しても改造は行わないでください。ドリルややすりがけ、研磨は自転車の安全性を損ないます。フォークに関しても同様モデルの代用品でなければ交換はしないでください。異なったモデルのフォークご使用時は同等の安全性は保証できず、自転車の操縦にも影響を与え、想定外の負荷が加わります。

WARNING

このマニュアルに記載されているルールに従わない場合、自転車の製品寿命は著しく短くなることがあります。
(4 ページ参照)

WARNING

自転車を正常な状態に保つためには、ステムやハンドルだけでなく、特にフレームやフォークの劣化や浸食の兆しを発見するような点検が必須になります。

リドレーフレームの寿命を縮める保管方法、及び使用方法

リドレーのフレームは先端技術を使用した製品であり、市場の中で、最も洗練された方法や素材の製品を使用してきました。リドレーは常に安全性について高い信頼性とより良い競技性能の提供を献身的に行ってきました。他の製品同様にリドレーのフレームの寿命も無期限ではなく、次の内容を遵守しない場合は劇的に縮まることがあります。不合理や予測不能、又はフレームやフォークの不適切な操作によって起こった損傷に対しては責任を負うことができません。そのような操作とは、以下に示す事項に限定されるものではありません。

- 1 リドレーのフレームに塗装や再塗装を行うこと。リドレーのフレームは保証期間内でオリジナルの色を使用し、リドレーのみによって再塗装されることがあります。
- 2 正規代理店による定期的なメンテナンスを怠ること。又メンテナンスは適切な用紙で証明されなければならない。
- 3 パーツを洗浄するために洗剤や潤滑剤、他にもガソリンを多用することはフレームの素材を溶かす可能性があります。
- 4 直射日光の下に自転車を置いていくと、フルカーボンや一部がカーボンの自転車において、その構造が高い熱により深刻なダメージを被ることがあります。
- 5 小さな打撃や落下、衝撃を受けた場合でもご使用前に正規代理店にて点検を行ってください。
- 6 あなた自身による修正や修理。リドレーは修理が必要な場合、状況により正規代理店を通じ対応します。
- 7 正規代理店以外による組み立てや分解。
- 8 自転車が走るために設計され、作られた以外の路面での使用。
- 9 95キロ以上の方の使用。95キロ付近の体重であればリドレーに適切なフレームの作成を依頼する必要があります。
- 10 自転車に重たいものを付けた場合や重さを加えた場合、又は子供用のシートを取り付けた場合等。
- 11 精神的、体力的なコンディションが十分でないときや危険な交通状況や天候下での使用。
- 12 総じてリドレーのフレームは適切及び予測範囲内の使用でも耐えられないことがあります。

自転車使用前の注意事項

唯一正規代理店があなたが選んだ部品を使用し、正確に組み立て可能であり、責任と知識があります。ハイスピードや急な下り坂で使う前に、障害物のない広い場所で適度なスピードで新しい自転車に乗り込んでください。予測可能なアクシデントの予防になります。

WARNING

ハイスピードや危険な状況下、又は障害物があるところで使用する前に新しい**自転車**をよく理解してください。以下の文章を注意深く読み、覚えておいてください。又自転車購入時に付属しているマニュアルを遵守してください。

もしマニュアルが付属していない場合は**自転車**の使用前に正規代理店に依頼してください。以下に記載した番号は競技用**自転車**の50年の経験に基づいた注意事項になります。しかしこれらには弊社の商品でない部品に対して、絶対的、明確な想定は含まれておりません。また責任も同様になります。

1 ブレーキ.

まず初めに舗装路にて、数回のブレーキ動作を行い、ブレーキの利きをチェックしてください。ブレーキの利き具合は集中的なブレーキング動作後も一定でなければなりません。もしブレーキの利きが悪ければすぐに正規代理店に自転車を持って行ってください。フロントブレーキを過度にかけるときには注意が必要です。もし突然、過度の力でフロントブレーキをかけると後輪が持ち上がり、前輪が片方に滑って、制御を失い転倒するでしょう。

2 ペダル

ビンディングペダルの使用を前提にフレームを設計しています。他のペダルを使用する際はご注意ください。ペダルの解放機構もしっかりと調整する必要があります。シューズは足にフィットしていて、尚且つ容易にペダルにはめられなければなりません。数回素早く漕いでみて、ペダルから足が外れないか確認してください。これらは外したい時にだけ外れ、横に足を動かす特有の動き以外では簡単に外れてはいけません。このペダルへの脱着が難しければ正規代理店にご相談してください。

3 変速機.

自転車に取り付けられている変速機についても理解が必要です。変速可能かを確認し、チェーンラインの角度が大きくなる比率のギアはご使用を控えてください。急激な又は適切でないギアチェンジはスプロケットの間でチェーンが挟まって動かなくなる危険があり、突然失速し、結果として転倒につながります。上記以外の状況でも変速のトラブルは起こる可能性があります。それは後輪の変速機がホイールのスポークに一番近いギアにの時に起こりやすいです。このようなケースは変速機が曲がってる、フレームの強度が弱くなっている、変速機のストローク量が調整されていない、もしくはこれらの要因を複数含んでいる影響が考えられます。このようになると後輪の変速機がスポークの間に挟まれ、損傷します。また突然の転倒は避けられませんし、危険になります。ハンドルもステムに固定され、動かないかを確認、またねじれ、曲げる、回転のような力を加えても動かないことを確認してください。

4 ステアリング.

前輪のブレーキをかけたまま、**自転車**を前後に動かし、ステアリングに遊びがないことを確認してください。もしこのときに変な動きや音が確認できれば、正規代理店に相談してください。さもないと、速度が上がるにつれ、ぐらつきやふらつき、振動が大きくなり、非常に危険です。これら症状は稀ですが個々の要因、またはそれらが組み合わさり、起こることがあります。もし一定のスピードから振動を感じ、ハンドルを離したときに顕著になるのであればすぐに正規代理店に持っていき、部品を点検してもらい、修理してください。そうでないと突然の転倒は避けられなく、危険になります。ハンドルもステムに固定され、動かないかを確認、またねじれ、曲げる、回転のような力を加えても動かないことを確

認してください。

自転車を使用する前に知っておくべき基本事項

人類の発明品のなかで自転車はもっとも効率のいい乗り物です。F1 やもっとも近代的な旅客機でもそのエネルギー効率を 0.5 とするならば、8 k g の重量で 80 k m 移動できる自転車のそれは 10 に値します。一方で自転車は人間によって二輪のバランスをとる必要があります、その性質上何も保護してくれるものはありません。したがって常に無防備な状態にあり、周囲の危険には脆弱になります。自転車に乗っている間は常に注意が必要になります。又質量や速度によりますが、**自転車**は私たちが考えているよりエネルギーを持っていることに注意しなければなりません。例えば衝突の場合、運動エネルギーはなくならないどころが圧力や熱に変化します。それが正面衝突の場合、自転車もしくは、乗っている人間の無傷では済みません。更には道路の隆起、盛り上がったアスファルトに囲まれたマンホール、ホイールを取られるような地面、このような予測不能の障害物でさえも破壊的な衝撃をもたらすことがあります。認識して頂きたいことは衝撃によってもたらされる速度変化は一瞬のため、その衝撃は膨大になるということです。例えば体重 80 k g の方が時速 40 k m で走っていて予期しない障害物に前輪から衝突したら、スピードは一瞬にして時速 10 k m まで減速され、勢いに加えて上記の速度変化時間に基づく衝撃を受けます。

これが 0.1 秒の間に起こった場合は自転車に乗っている人が受ける衝撃は 600 k g になり、0.01 秒の場合は 6000 k g にも及びます。

故に不幸な事故の結果により衝撃を受け、自転車の損傷や変形の結果として転倒しても、それは衝撃を受けた影響であり、自転車自体の不備ではありません。これは自転車に乗っている間に注意、また舗装の悪い道や視界の悪い状況でしっかりと減速が必要な理由になります。

リドレーのフレームやフォークは複合金又はカーボン繊維を基にした化合物で作られています。前者の金属合金に使われる一例はスチール、様々なアルミニウム及びチタンである。金属合金は高品質で最大限の安全性を持っています。注目すべきは、2 種類の素材は不運な事故の際に違った種類の作用をもたらします。金属合金は折れることもありますが、ねじれや曲りには強く、一方でカーボン素材は破損することもあります耐衝撃性が金属合金よりも優れています。もちろん両方とも壊れやすくはありません。しかし、カーボン素材がもし折れた場合、同等の構造で作られた金属合金の最大強度を超えて、それを破壊するような力が加わったということだ。しかしながらそれは正しく設計された、標準規格に沿ったものになります。

日常の点検実施項目

以下の手順を注意深く読んでください。また自転車購入時に付属するマニュアルや説明書は厳守するようお願いいたします。もしマニュアルが付属していない場合は正規代理店に依頼してください。もしマニュアルが付属していない場合は自転車の使用前に販売店に依頼してください。以下の文章は競技用自転車の50年の経験に基づいた一般的な注意事項になります。しかし、注意事項には弊社の商品でない部品についても含まれており、それらに対する説明責任は想定していません。

1 フレームとフォーク.

自転車をきれいに保つこと、また各部品に注油し、グリスアップ、又フレームとフォークもきれいにすることは見た目だけでなく、パーツを点検する面でも有効になります。疲労の兆候や見つけにくい擦り傷の発見、研磨剤や汗などの腐食性物質の除去は自転車の価値を維持するだけではなく、製品寿命を延ばします。

2 タイヤ.

タイヤのビードに推奨されている空気圧を守り、タイヤが無傷、すりきれてないことを確認してください。また切り傷、損傷も確認し、タイヤの空気漏れがないかも確認してください。

3 ホイール.

ホイールが上下に振動しないか、タイヤが一周したとき左右に振れがないか、リムが偏りなくブレーキパッドの近くを通過しているかの確認をしてください。もし左記の状態であれば正規代理店にお持ちいただき、ホイールアライメントをチェックしてください。

4 ブレーキ.

ブレーキの利きは安全上、もっとも重要なので必ずチェックしてください。とくにパッドは摩耗している状態では使用不能であり、リムから1mmから2mmの幅で揃えられている必要があります。

自転車に乗る前にブレーキレバーを使った入念な実施テストを行ってください。ブレーキレバーはハンドルに近づきすぎない状態で自由に動く必要があります。

5 ホイールの解放機構.

ホイールはフォークにしっかりと取り付けられなければなりません。クイックリリースはホイールを工具なしで取り付けることができます。クイックリリースがロック状態である時はホイールの車軸は軸受けに固定されている必要があります、そのホイールはフロントフォークとリアフォークの規格に適合していることが必須です。クイックリリースを正しいポジションに適正な力で固定すれば、ホイールは外したいときに容易に外すことができます。

6 ハンドルとステム.

日々ハンドルとステムが正しく取り付けられているか点検してください。そして目に見える傷、溝、曲りや亀裂などの金属疲労を発見できるようにしてください。ステムのゆがみやハンドルの曲りは乗車時に深刻な影響を及ぼすので丁寧に点検をおこなってください。

7 シートとシートポスト.

体重はシートによって支えられています。シートやシートポストは自転車をこぐ際に足の力を受け止める支点となります。そのためシートとシートポストは頻繁に点検してください。特にねじの締め具合とシートポストのヤグラは定期的に点検してください。手でシートの両端をもって、ねじったり、動かしたりしてキーキー音がしたり、動かないかチェックしてください。

定期的な点検

自転車の点検は主に安全に対する悪影響を防ぐために必須になります。これらの点検を怠ると怪我をする可能性があります。もっとも顕著な例はなにかにぶつかっても痕跡が見当たらない時です。または転んだのに少しもフレームの塗装に傷がない場合は必ず点検を行ってください。メンテナンスが不十分だと素材の疲労がますますひどくなります。ぶつかったりして使い古された自転車は本来期待される機能は発揮しませんし、信頼性もありません。自転車購入時に正規代理店にて口頭で説明されたこと、及びマニュアル記載事項は厳守してください。もし説明を受けていない場合は使用前に正規代理店に依頼してください。

最低限知るべき安全ルールと実用的アドバイス

1 ヘルメットのご使用自転車に乗るときはかならず、しっかりと固定でき、頭によく合うヘルメットを着用しなければなりません。無防備な頭は非常に弱いです。安全基準を満たしたヘルメットは怪我を予防してくれます。

2 服装とサングラス自転車用のサングラスと服装もあると好ましい。

3 交通ルールの順守自転車の交通規則について理解し、遵守する必要があります。これらのルールは国ごとに異なります。しかし共通の交通規則もあるので記載します。

- ・集団走行は一列にて走行。
- ・道が悪い側道では自転車には乗らない。
- ・必要時の正確な手信号
- ・他の交通手段より自転車は認知されにくいので危険を察知するよう心掛ける。
ほとんどのドライバーは自転車の権利を尊重しません。
- ・ベルか警笛を取り付けましょう。
- ・光を反射するために反射板をとりつけ明るい色の服を着用する。
- ・総じて、自転車に乗っている間は危険があるので安全に気を付けてください。

また危険を予想し、ご自身を守る行動をとってください。そうすれば潜在的危険にも気づくことがあります。

4 技術的なアドバイス

- ・ゆっくり進んでいるときや狭い曲がり角ではペダルを漕ぐのをやめましょう。競技用の自転車はホイールの幅が狭く、つま先が前輪にあたることがあります。通常のスPEEDでもつまさきが当たる程、ハンドルを切ってはけません。
- ・雨が降り、路面が濡れているときやタイヤのグリップが低下するような路面状況では最大限注意をしてください。又スPEEDを落とし、強いブレーキは避けてください。雨や曇りの天候化ではご自身や他の人も視界が悪く制動距離も増加します。
- ・横断歩道やぬれ落ち葉は滑りやすくなっているので、特に注意が必要です。